

# 東北大学会計大学院の新コース（ビジネスアカウンティングコース）と 新入試（自己推薦入試）のご案内

## ビジネスアカウンティングコース

2020年4月より、東北大学会計大学院（東北大学大学院経済学研究科会計専門職専攻）では既存の公認会計士コース、会計リサーチコースに加えて、「**ビジネスアカウンティングコース**（1学年定員10名）」を新設します。

IFRS（国際財務報告基準）の広がり、コーポレートガバナンス・内部統制の強化の流れの中で、企業会計・監査に関する高度な知識やそれを生かした高度な分析能力やディスカッション能力は、民間企業、コンサルティングファーム、官公庁等への就職、あるいは在職者のスキルアップに不可欠なものとなっております。**ビジネスアカウンティングコース**はこうしたニーズに対応できるコースとなっております。

## 特徴的な履修枠組み

### (1) 多様な科目の設置

本会計大学院では90科目を設置しております。また、大学院経済学研究科経済経営学専攻、公共政策大学院の科目履修も可能で、また、一部科目を修了に必要な科目に組み入れることができ、多様なニーズに対応できます。**ビジネスアカウンティングコース**は他コースよりもこれらの科目を柔軟に履修することが可能となる、自由度の高いコースとなります。

### (2) ワークショップ科目と事例研究（ケーススタディ）科目

**ビジネスアカウンティングコース**における（選択）必修科目となります。ワークショップ科目は受講者の分析能力、プレゼンテーション能力、ディスカッション能力を高めることを目指しており、ある講義では、財務データベースを使って、企業の財務特性や行動を分析して、討論の上、レポートにまとめることが求められます。

また会計大学院では開設以来、事例研究（ケーススタディ）科目を重視しており、主に実務家教員が担当する8科目が開講されています。

### (3) 週末・夜間講義の充実

土曜日および夜間（18:00～）時間帯の開講科目を充実させ、**ビジネスアカウンティングコース**では、それらを受講するだけで修了に必要な科目の大部分をカバーできるようにします（比較的高度な科目を中心に、週末・夜間に開講いたします）。また、会計大学院の講義は一部科目を除き、利便性の高い片平キャンパス（JR仙台駅から徒歩15分）で開講しております。こうした体制の下で、社会人の方の学び直しに貢献できるものと考えております。

### (4) 長期履修制度 or 早期修了の適用

会計大学院では勤務等の事情がある場合には、最長4年間まで履修期間を延長することができます（その場合でも授業料は2年分となります）。また、審査を経て1年または1年半での修了が認められる場合もあります。

## 会計大学院の3つのコース（2020年4月～）

	公認会計士コース	ビジネスアカウンティングコース	会計リサーチコース
1学年定員	25名	10名	5名
各コースで求める学生像	国際的に活躍できる公認会計士を目指す方。監査法人・会計事務所への就職や企業内会計士を目指す方	高度な会計および周辺領域の知識の獲得を目指す方。社会人の学び直し、コンサルティングファームや官公庁への就職を視野に入れる方	会計・法人税法に関する研究を志向される方。社会人の学び直し、税理士試験の一部科目免除、博士後期課程進学を視野に入れる方
履修上の特徴*1	選択必修科目を中心としたコースワークを中心とするコースとなります。公認会計士試験の短答式試験の一部科目免除と直結しています。	公認会計士コースよりも自由度が高いコースワークの履修が中心となります。週末・夜間の受講を中心として修了可能です*4。	リサーチペーパー（修士論文）の作成が必修となります。週末・夜間の受講を中心として修了可能です*4。
長期履修制度*2	適用可（適用のための条件あり）	適用可（適用のための条件あり）	適用可（適用のための条件あり）
早期修了制度*2	適用不可	適用可（適用のための条件あり）	適用可（適用のための条件あり）
対応する入試*3	一般選抜（筆答試験）	一般選抜（筆答試験+口述試験） 自己推薦入試（書類選考+口述試験）	一般選抜（筆答試験+口述試験） 自己推薦入試（書類選考+口述試験）

\*1 各コースとも、会計大学院共通のコアカリキュラムを重視する観点から、倫理科目、ビジネスコミュニケーション科目（英語関連科目）が必修となります。

\*2 長期履修制度・早期修了制度の適用条件については、会計大学院係にご照会ください。

\*3 他に、「東北大学経済学部生を対象とする試験」および「3年次学生を対象とする試験」がございます。また、筆答試験の試験科目は会計学となります。

\*4 年間20～25科目の講義系科目を夜間および土曜日に開講予定です。また、論文指導科目は教員と受講者が協議の上、講義日程（時間帯）を決定します。

## 自己推薦入試（2020年4月以降の入学者を対象）

会計大学院では2020年4月以降の入学者を対象とする入試におきまして自己推薦入試を導入します。本入試は、ビジネスアカウンティングコース（入学定員10名）と会計リサーチコース（入学定員5名）志願者の一部を対象とする入試となり（本入試を通じて公認会計士コースに入学することはできません）、9月（Ⅰ期〔10月入学、4月入学志願者対象〕）と2月（Ⅱ期〔4月入学志願者対象〕）に実施されます（詳細な実施時期は募集要項をご参照ください）

### 1 自己推薦入試の出願資格（詳細は募集要項をご参照ください）

大卒（相当）資格を有する者（見込みの者を含む）とします。ただし本入試については広く門戸を開放するため、東北大学経済学部在籍者（学部研究生は除く）は出願できません。

### 2 選考方法（詳細は募集要項をご参照ください）

#### 書類選考（第1段階）

志願理由書および志願者が自ら選択して提出した学力評価の参考となる資料に基づいて評価がなされます。学力評価の参考となる資料として学生の方であれば成績証明書、社会人の方であれば業務経歴書（様式自由）を提出いただければよいでしょう。さらに、TOEFL®Test、TOEIC®Test、実用英語技能検定(英検)などの語学関連のスコア証明書、日商簿記検定、各種資格（公認会計士、税理士、情報処理技術者試験、行政書士など、科目合格制度がある資格でしたら一部科目合格でも可能）に係る証明書を提出いただければと思います。

（注）TOEFL、TOEFL iBT、TOEFL ITP および TOEIC はエデュケーショナル・テスト・サービス（ETS）の登録商標です。

\* 志願者が募集人員を大幅に上回り、口述試験を適切に実施できない場合のみコースごとに第1段階選抜を行い、その合格者に対して口述試験を行います。

#### 口述試験（第2段階）

受験者ごとに複数の口述試験委員から口頭試問を受ける形式で行います。志願理由、学習（研究）計画、ビジネスアカウンティングコースでは学習したいテーマや将来目指される業務との関係、会計リサーチコースでは研究テーマ等について問われます。

## 3 東北大学会計大学院の入試の枠組み（2020年度以降入学者）

### 入試区分と志望するコースの関係

入試区分\志望するコース	公認会計士コース	会計リサーチコース	ビジネスアカウンティングコース
東北大学経済学部生を対象とする試験（5月） 一般選抜（Ⅰ期〔9月〕、Ⅱ期〔2月〕） 3年次学生を対象とする試験（2月）	○	○	○
自己推薦入試（第Ⅰ期〔9月〕、第Ⅱ期〔2月〕）	×	○	○

○：出願可、×：出願不可

### 各入試区分の試験科目と志望するコースの関係

志望するコース\入試区分	一般選抜（Ⅰ期、Ⅱ期） 3年次学生を対象とする試験	東北大学経済学部生を 対象とする試験	自己推薦入試 （Ⅰ期、Ⅱ期）
公認会計士コース	筆答試験	口述試験	
会計リサーチコース	筆答試験+口述試験	口述試験	書類選考+口述試験
ビジネスアカウンティングコース	筆答試験+口述試験	口述試験	書類選考+口述試験

注：筆答試験の試験科目は会計学となります

備考：Ⅰ期及びⅡ期の各入試では、複数のコース及び入試区分に同時に申し込むことはできません。

本文書に関するお問い合わせ先  
会計大学院係 (as-jimu@grp.tohoku.ac.jp)